

平成29年5月19日
平成28年度 あまのくらし部会 実施報告

あまのくらし部会の役割

障がいのある人の地域生活を支援するための
課題等について協議します。

あまのくらし部会では、災害時にも生きる地域の
ネットワークづくり、親の高齢化に伴う障がい
のある人の自立生活や相談支援体制の整備な
どについて取り組んでいます。

今年度の取り組み

地域での自立生活を考える

学習会

- ・災害支援現場からの報告(熊本地震から学ぶ事)
- ・熊本支援の報告
- ・尼崎市社会福祉協議会の活動について

あまのくらし部会フォーラムの開催

3

部会の開催と協議内容

- ・自立支援協議会 全体会(平成28年6月17日)
平成27年度 あまのくらし部会 実施報告
- ・第1回(平成28年5月25日)
部会長の選任・副部会長の指名
昨年度の取り組みと、今年度の取り組みについて
- ・第2回(平成28年6月28日)
あまのくらし部会の日程調整
フォーラムについて
- ・第3回(平成28年7月26日)
学習会「災害支援の現場からの報告(熊本地震から学ぶこと)

4

第4回（平成28年8月23日）
学習会「熊本地震支援活動に携わったあぜくら作業所
吉兼所長の現地報告」
フォーラムについて
第5回（平成28年9月27日）・第6回（平成28年10月25日）
フォーラム準備～（あまのくらし部会フォーラム 平成28年11月22日）
第7回（平成28年12月20日）・第8回（平成29年1月24日）
フォーラム振り返り
第9回（平成29年2月28日）
高齢者ふれあいサロンについて
来年度の取り組みについての提案
第10回（平成29年3月28日）
学習会「尼崎市社会福祉協議会の活動について」
第11回（平成29年4月25日）
部会長の交代、事務局の交代について
平成28年度報告について

5

学習会

「災害支援の現場からの報告(熊本地震から学ぶこと)」

- ・福祉避難所が開設されるまでに時間がかかるのは、周知不足からであった。施設側の準備不足や要支援者への周知がほとんどされておらず、市は施設側に問い合わせが殺到し、現場が混乱するとして市民に広く周知していなかった。
- ・家に住むことはできるが、夜間のみ避難所で過ごす方もいた。
- ・公園でテントを立てて過ごす人もいた。
- ・都市ガスの会社が元栓を閉めたため、大きな被害はなくライフラインの復帰は早かった。
- ・3禁(土足禁止・禁酒・禁煙)を訴えていた。
- ・現場職員の疲労も限界であった。
- ・ボランティアの男性が避難所の小学校でヒップホップダンスをしており、心身の運動に効果的で避難者の8割が参加していた。

6

学習会 熊本支援の報告

- ・障害を持っている方への訪問調査を実施。
- ・西原たんぽぽハウス(益城町の隣町)で炊き出し、軽作業、送迎、入浴、食事等様々な支援と利用者への直接介助及び作業援助を実施。
- ・訪問の際はSOSチラシを配布し、相談できる体制を作っていた。
- ・スタッフマネージャー業務の実施。
- ・益城町の仮設住宅の視察へ参加。

7

学習会

尼崎市立社会福祉協議会の活動について

- ・市内75地区あり、その中で65歳以上の単身世帯者で希望された方に見守り業務を行っている。
- ・園田地区ではこども食堂をスタートしている。
- ・いきいき100歳体操を実施。
- ・市内の町会加入率は50%後半。全国的に加入率が低くなっている中で都市部では比較的高い割合である。
- ・地域福祉専門員を中心に地域活動を行っている。
- ・ふれあいサロンや炊き出しをすることで、緊急時にお互いに協力できる体制を作っていきたい。

8

あまのくらし部会フォーラムの開催

6地区にわかれて「災害時の地域連携」について当事者や家族から話をし頂き、参加者による「地域でのささえ愛、たすけ愛」をテーマに災害時に必要な支援について当事者や家族、地域包括支援センター職員、民生児童委員、社会福祉協議会地域活動専門員、支所の地域保健担当、事業所等様々な分野から参加してもらい、災害時にも生きる地域の顔の見える関係づくりにつながる交流をした。

日時：平成28年11月22日(火)13時～15時30分

場所：尼崎市立中央公民館 6室

参加：93名

9

アンケートより

- ・当事者や家族の思いが伝わってきてよかった。
- ・有意義な話し合いができた。今後も定期的に長期にわたって継続することが大事だと思った。
- ・自分で声を上げることが大事だということがわかった。
- ・いろんな立場の人の意見が聞けて勉強になった。
- ・地区ごとに分かれて話しができたので、中身が濃い話ができしたが、全地区とも共有できたらよい。
- ・自立支援協議会や当事者のことを知るいい機会になった。

10

部会の振り返りより

- ・要避難者名簿の登録をしている人はごくわずかで、まだまだ浸透していないことがわかった。
- ・福祉避難所は災害時にすぐに開設されず一時的な場所であり、医療的ケアや浴室がないといけなため一般的な作業所では場所の提供が困難であることなど、受け入れる側にも問題は多い。
- ・障害の有無の関係なく地域で暮らす中でつながりが大切ということが分かった。
- ・どう助けてよいかわからない、という声もあった。情報を発信し続けていくことが大切である。
- ・今後も自立支援協議会の中で、つながりを大切にして「顔の見える関係」を構築していく活動を継続していくことが大切である。

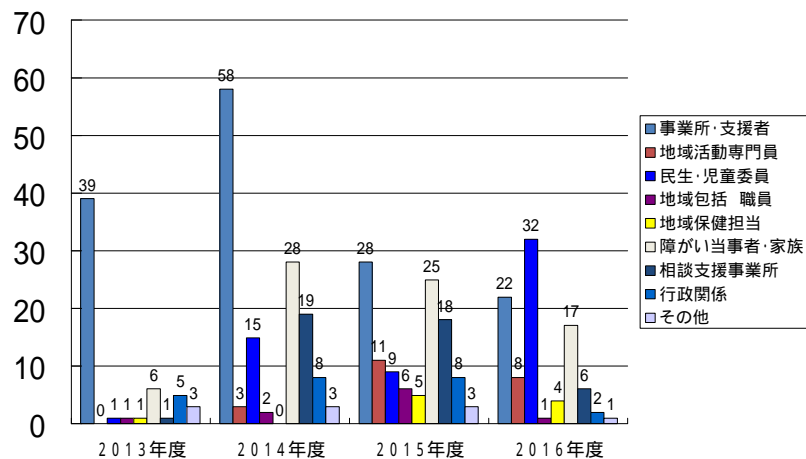
11

フォーラム年度別参加者の内訳 (数値)

参加者の内訳	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
事業所・支援者	39	58	28	22
地域活動専門員	0	3	11	8
民生・児童委員	1	15	9	32
地域包括 職員	1	2	6	1
地域保健担当	1	0	5	4
障がい当事者・家族	6	28	25	17
相談支援事業所	1	19	18	6
行政関係	5	8	8	2
その他	3	3	3	1
合計	57	136	113	93

12

フォーラム年度別参加者の内訳 (グラフ)



13

今後に向けて

- ・地域のネットワークづくりに取り組んでおられる方々と共同して、災害時にも生きる、地域で顔の見える関係作りを考える。
- ・あまのくらし部会フォーラムの開催を継続する。
- ・災害時に活用できるネットワークづくりのためにフォーラムに参加してもらった事業所や行政等を記載した名簿の作成を検討。
- ・地域生活をしていくうえで課題となっている「65歳問題」について考える。

14